

## 在学生の遺志受け継ぐ

# 法学書100冊寄贈

## ウズベキスタンへ来月

名大が基金活用



ウズベキスタン人留学生の下宿先に招かれた伊藤さんの両親(左から3人目と4人目)



名古屋大学は9月、法学部在学中の2009年3月に21歳で病死した伊藤康祐さん(写真)の遺志を元に創設した基金「伊藤康祐基金」を活用し、中央アジアのウズベキスタンのタシケント国立法科大学に書籍100冊を寄贈する。伊藤さんの両親も、寄贈に立ち会うためウズベキスタン入りし、学生らと交流を深める予定だ。(岡崎哲)

岩倉市に住んでいて3年生の時に亡くなった伊藤さんは生前、発展途上国の法整備支援に関心を持っていた。そうしたことから、名古屋大は09年8月、その遺志を受け継ぐため両親からの寄付金をもとに同基金を創設。これまで法曹養成教育で協力してきたウズベキスタン、モンゴルに、基金を活用して日本語の書籍195冊を寄贈してきた。

今回、新たにウズベキスタンに寄贈されるのは、ロシア語や英語の法学書。9月2日に現地の大学で寄贈式典が開かれ、伊藤さんの両親、名古屋大学・法政国際教育協力研究センターの市橋克哉センター長らが参加する。

伊藤さんは生前、名古屋大で留学生の生活を支援するサークルに参加。仲良くなったウズベキスタン人留学生を自宅に招いたこともあった。伊藤さん亡き後もそうした縁で留学生4人が両親の元をたびたび訪ねるなど、交流が続いていたという。両親の俊彦さん(59)と順子さん(51)は、寄贈式典の翌3日、既に帰国した留学生の一人が現地で挙げる結婚式にも参加する。俊彦さんは「息子が我々をウズベキスタンに導いてくれた気がする。寄贈する本が現地の学生のために少しでも役立つなら息子も喜ぶのではないかと話していた。

## ウズベクに法律書など87冊

突然死した伊藤さんの遺志継ぐ  
基金活用し学生支援

名大



基金で購入した本を受け取る  
ウズベキスタンの学生ら（今  
年3月、名古屋大学法学部提供）

おり、母の順子さん(50)は「多くの留学生が日本を訪れるきっかけになれば」と期待している。

伊藤さんは、途上国の法整備の専門家である米・ワシントン大教授の講演をきっかけにこの分野に関心をもち、アジアの留学生を支援するサークルに所属。英語力を磨いて卒業後には米国へ留学し、国際弁護士になることを夢見ていた。しかし、3年生だった昨年3月29日、岩倉市の自宅で突然亡くなった。

法学部は同8月、順子さんと父の俊彦さん(57)から寄付された香典を基に基金を設置。今年3月に同大ウ

ズベキスタン事務所が開設されたのに合わせ、日本の法律や歴史を紹介する図書87冊を購入した。同国で法律家を目指す学生が活用するという。

今後、同大が法曹教育で協力しているモンゴル、ベトナム、カンボジアでも基金を活用する予定だ。

順子さんは伊藤さんのブログを編集した「個独のブログ」(三五館刊)の印税も基金に寄付することにしており、法学部長の鮎京正訓教授(59)は「名大で花開きつつあった伊藤君のためにも、責任を持って運営していきたい」と話している。

名古屋大学法学部在学中の昨年3月、21歳で突然死した伊藤康祐さんの遺志を継いだ基金「名古屋大学伊藤康祐基金」が学内に設け

られ、今年3月、同大からウズベキスタンに贈った図書87冊の購入に充てられた。伊藤さんは生前、途上国の法整備に関心を持って